

2019年（令和元年）

8月9日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

■ 概況

7/25~7/31のNYMEX・WTIは、56.02~58.58ドルの範囲で推移した。

8月1日は、前日EIA週報の米国産油量の増加報告、ドル高・ユーロ安に伴う割高感で売りが先行、さらにトランプ大統領が対中制裁関税（第4弾）の拡大を表明したことで、6営業日ぶりに急反落した。9月限終値は前日比4.63ドル安の53.95ドル。

週末2日は、前日の急反落の反動で、値ごろ感からの買戻しが広がり、大幅に反発した。9月限終値は前日比1.71ドル高の55.66ドル。また、ペーカー・ヒューズ社の米国稼動石油掘削装置数は770基で前週比6基減5週連続の減少。

週明け5日は、先週末の米国の対中追加関税発表に対し、中国は人民元安を容認、さらにトランプ大統領は「為替操作」と批判、米中摩擦の一層の激化が懸念されることから、反落した。9月限終値は前週末比0.97ドル安の54.69ドル。

6日は、朝方、この日と翌日に発表予定の米国官民の原油在庫週報が8週連続の散り崩れ見込みであることから、強含みで始まったが、その後、米中摩擦激化の懸念による売りが広がり、続落した。9月限最終値は前日比1.06ドル安の53.63ドル。

7日は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油が前週比240万バレル増と市場予想に反する8週ぶりの積み増し、ガソリンも中間留分も市場予想を上回る積み増しとなり、供給過剰懸念が高まり、3日続落した。9月限の終値は前

日比2.54ドル安の51.09ドル。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場（9月渡し）は7月25日~31日の間62.40~64.50ドルの範囲で推移した。8月1日63.00ドル、2日60.60ドル、5日59.80ドル、6日59.20ドル、7日57.70ドルで推移した。

為替は7月25日~31日の間108.22~108.89円の範囲で推移した。8月1日109.27円、2日107.17円、5日106.35円、6日105.86円、7日106.17で推移した。

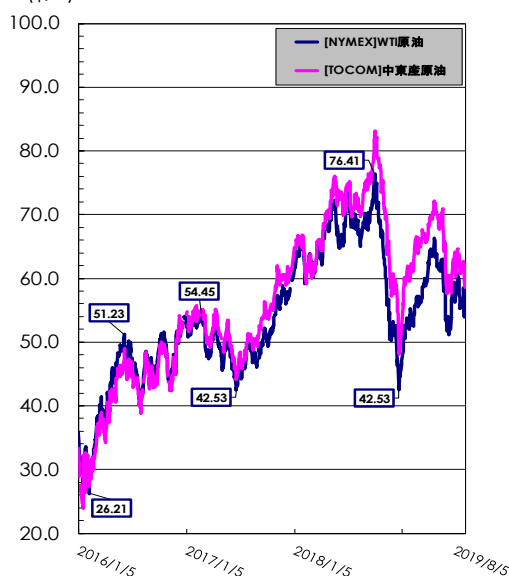
財務省が8月7日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、7月中旬の原油輸入平均CIF価格は、45,246円/klで、前旬比2,027円安、ドル建てでは66.70ドルで前旬比3.00ドル安。為替レートは1ドル/107.84円だった。

そのような中で、8月5日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値下がり、軽油は同0.2円の値下がり、灯油は同横ばい（18㍑ベース）だった。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油は3週ぶりの値下がり、灯油は2週ぶりに値下がりが止まった。

この週（8月第1週）の原油コストは値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、0.5円~1.0円の値下げに分かれた。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	7/28 ~ 8/3	3,429 ▲ 9	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	87.6 ▲ 0.3	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	8/3	13,262 ▼ -530	▲ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	8/5	58.53 ▼ -2.32	▼ -13.2
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	8/5	54.69 ▼ -2.18	▼ -14.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	7月中旬	66.70 ▼ -3.00	▼ -9.98
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	45,246 ▼ -2,027	▼ -8,172
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	107.84 ▼ -0.01	▲ 2.91
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/5	107.35 ▲ 2.10	▲ 4.89

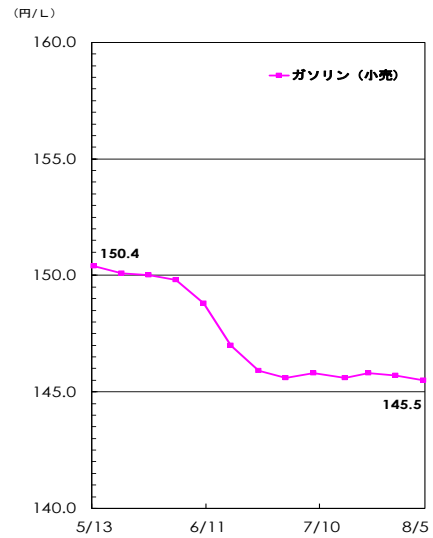
(\$/b)



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	7/28 ~ 8/3	1,005 ▲ 69	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	943 ▲ 77	▼ -
	輸出	"	56 ▲ 46	▲ -
	在庫	8/3	1,567 ▲ 6	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/30 ~ 8/5	58.8 ▲ 0.1	▼ -9.0
	先物 [期近物/終値]	7/30 ~ 8/5	55.4 ▼ -0.2	▼ -9.2
	(TOCOM/中部)	8/5	54.5 ▼ -2.0	▼ -10.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/5	145.5 ▼ -0.2	▼ -6.6

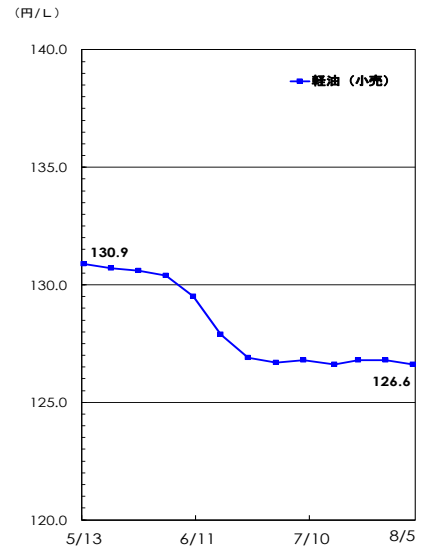
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

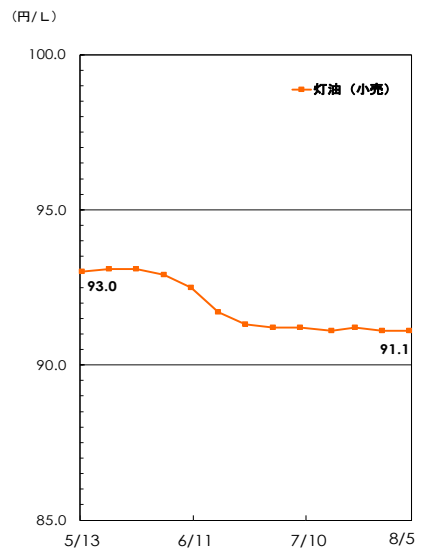
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	7/28 ~ 8/3	863 ▼ -36	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	701 ▲ 53	▲ -
	輸出	"	180 ▼ -68	▼ -
	在庫	8/3	1,469 ▼ -19	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/30 ~ 8/5	61.6 ▼ -0.1	▼ -7.2
	先物 [期近物/終値]	7/30 ~ 8/5	62.9 ▲ 0.4	▼ -6.1
	(TOCOM/中部)	8/5	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/5	126.6 ▼ -0.2	▼ -4.2

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	7/28 ~ 8/3	186 ▼ -55	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	122 ▲ 57	▲ -
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -
	在庫	8/3	1,875 ▲ 64	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/30 ~ 8/5	60.3 ▲ 0.3	▼ -7.7
	先物 [期近物/終値]	7/30 ~ 8/5	58.2 ▼ -0.3	▼ -8.8
	(TOCOM/中部)	8/5	58.0 ▼ -2.5	▼ -9.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/5	91.1 ➡ 0.0	▼ -1.9



■ 関連情報

1 海外/原油

8月7日のNYMEX市場WTI原油は、米中貿易摩擦が激化する中、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油が前週比240万バレル増と市場予想(280万バレル減)に反する8週ぶりの積み増し、ガソリンも同440万バレル増、中間留分も150万バレル増と市場予想を上回る積み増しとなったことで、供給過剰懸念が高まり、3日続落、約7ヵ月ぶりの安値を記録した。9月限の終値は前日比2.54ドル安の51.09ドル、10月限の終値は前日比2.56ドル安の51.03ドル。

EIAによると、8月5日時点のガソリンの小売価格は、前週比2.7セント値下がりの1ガロン2.688ドル(76.1円/ℓ)、

ディーゼルは同0.2セント値下がりの3.032ドル(85.9円/ℓ)となった。ガソリンは3週連続の値下がり、ディーゼルは4週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年7月28日～8月3日に休止したトッパ能力は10.4万バレル/日で、前週に対して4.1万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は342.9万klと、前週に比べ0.9万kl増加。前年に対しては6.3万klの減少。トッパ稼働率は87.6%と前週に対して0.3ポイントの増加、前年に対しては1.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、軽油、A重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/7.4%増、ジェット/6.1%増、灯油/22.9%減、軽油/4.0%減、A重油/9.1%減、C重油/23.6%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は18.0万kl(前週比6.8万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェットが減少となり、その他の油種で増加となった。前年比では灯油、軽油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は94.3万 kl(対前週8.9%増)と2週振りで増加となり、31週連続で100万klを下回った。ジェット10.9万kl(対前週6.0%減)、灯油12.2万kl(対前週88.2%増)、軽油70.1万kl(対前週8.3%増)、A重油18.8万kl(対前週12.3%増)、C重油27.0万kl(対前週83.0%増)。

(単位: 千KL)

	今週 (7/28 ~ 8/3)	前週 (7/21 ~ 7/27)	前週比
ガソリン	943	866	▲ 77 (9%)
ジェット燃料	109	117	▼ -8 (-7%)
灯油	122	65	▲ 57 (88%)
軽油	701	648	▲ 53 (8%)
A重油	188	168	▲ 20 (12%)
C重油	270	147	▲ 123 (84%)
合 計	2,333	2,011	▲ 322 (16%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

8月3日時点の在庫は、ガソリン、灯油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、ガソリン、灯油、軽油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは156.7万kl、前週差0.6万kl増。前年に対しては6.3万kl多い。

灯油は187.5万kl、前週差6.4万kl増。前年に対しては14.2万kl多い。

軽油は146.9万kl、前週差1.9万kl減。前年に対しては4.6万kl多い。

A重油は70.0万kl、前週差0.5万kl減。前年に対しては2.7万kl少ない。

C重油は190.1万kl、前週差6.6万kl減。前年に対しては0.9万kl少ない。

(単位: 千KL)

	今週 (8/3)	前週 (7/27)	前週比
ガソリン	1,567	1,561	▲ 6 (0%)
ジェット燃料	879	947	▼ -68 (-7%)
灯油	1,875	1,811	▲ 64 (4%)
軽油	1,469	1,488	▼ -19 (-1%)
A重油	700	705	▼ -5 (-1%)
C重油	1,901	1,967	▼ -66 (-3%)
合 計	8,391	8,479	▼ -88 (-1.0%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

7月30日～8月5日の原油価格は、前週比で値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、7月30日～8月5日の間、ガソリン111～113円台で値上がり後大きく値下がり、軽油61～62円台で値上がり後値下がり、灯油59～61円台で値上がり後大きく値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン114～115円台で値下がり、軽油63～64円台で値下がり、灯油54～57円

台で大きく値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン107～110円台で値上がり後激しく値下がり、軽油62～63円台で値下がり、灯油55～59円台で激しく値下がりして推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、0.5円と1.0円の値下げに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

7月30日～8月5日の製品スポット市況は、7月23日～29日平均と比べ、ガソリンと灯油の先物、軽油の陸上を除き、他の油種・取引は値上がりしたが、小幅な値動きであった。

直近の陸上スポット価格(7/30～8/5千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは0.1円の値上がり、灯油は0.3円の値上がり、軽油は0.1円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは0.1円の値上がり、灯油は0.3円の値上がり、軽油は0.3円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが0.2円の値下がり、灯油は0.3円の値下がり、軽油は0.4円の値上がりだった。

8月第2週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、0.5円～1.0円の値下げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
ス ポ ッ ト 価 格	[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (7/30 ~ 8/5)	前週 (7/23 ~ 7/29)	前週比
	レギュラー	58.8	58.7	▲ 0.1
	灯油	60.3	60.0	▲ 0.3
	軽油	61.6	61.7	▼ -0.1

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
先 物 価 格	[期近物/終値] 〔平均〕	今週 (7/30 ~ 8/5)	前週 (7/23 ~ 7/29)	前週比
	レギュラー	55.4	55.6	▼ -0.2
	灯油	58.2	58.5	▼ -0.3
	軽油	62.9	62.5	▲ 0.4

※上記価格は税抜き価格

参考値 (7/30～8/5実績値)		(単位: 円/ℓ)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▲ 0.1	▼ -0.2	▼ -0.1	
灯油	▲ 0.3	▼ -0.3	→ 0.0	
軽油	▼ -0.1	▲ 0.4	▲ 0.2	
A重油	▼ -0.1			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

8月5日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円安の145.5円、軽油は同0.2円安の126.6円、灯油は18ℓベースで同横ばいの1,639円(1ℓベースでも同横ばいの91.1円)だった。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油は3週ぶりの値下がり、灯油は2週ぶりに値下がり止まった。都道府県別には、値上がりが6県、横ばいが8県、値下がりが33都道府県だった。全国最安値は滋賀県の139.5円(同2.2円安)、その次は埼玉県の140.2円(前週比0.1円高)、最高値は長崎県の157.2円(同0.2円安)であった。最も値上がりしたのは0.4円高の石川県(141.4円)、最も値下がりしたのは2.2円安の滋賀県(139.5円)だった。

先週の原油コストはわずかに値上がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きと0.5円の値上げに分かれた。

今週は、原油価格は値下がりし、為替レートの円高で、原油コストは値下がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、0.5円～1.0円の値下げに分かれた。次週(8月13日)のガソリン・灯油の小売価格は、小幅な値下がり予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/ℓ)				
小 売 価 格		今週 (8/5)	前週 (7/29)	前週比	直近高値	
	レギュラー	145.5	145.7	▼ -0.2	08/8/4	185.1
	灯油	91.1	91.1	→ 0.0	08/8/11	132.1
	軽油	126.6	126.8	▼ -0.2	08/8/4	167.4

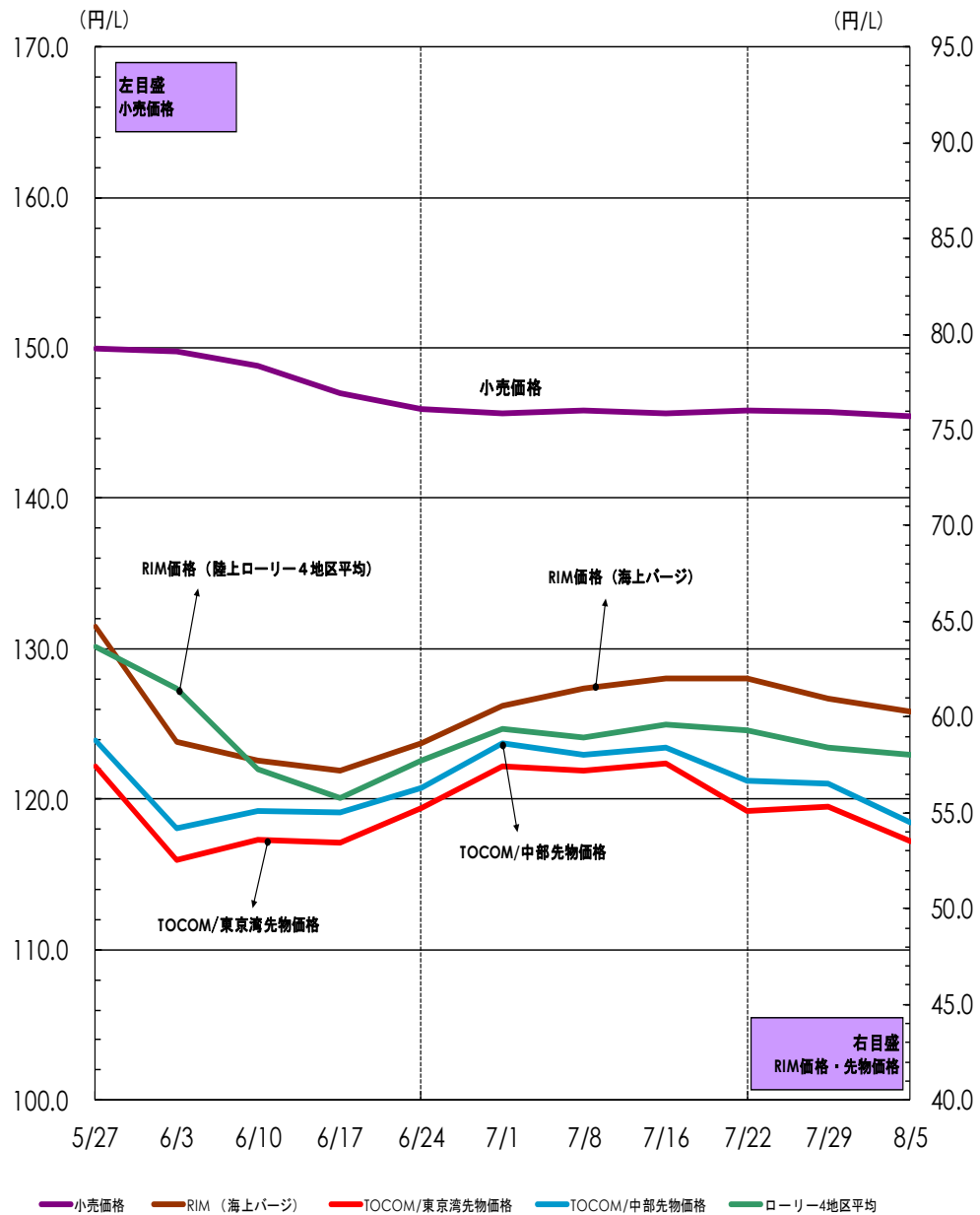
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

[2019/5/27 ~ 2019/8/5]



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2019第19号)の公表は、8/23(金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(平成31年3月末現在)は、7月31日(水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向 調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。